

東寺(教王護国寺)周辺エリア

～本願寺・東寺界わい景観整備地区・六孫王神社～

エリア概要

- 本願寺・東寺界わい景観整備地区は、平安遷都直後に官寺として建立された東寺を中心に開けた市街地である。鎌倉時代以降、大師信仰の興隆や、大宮七条に稻荷社御旅所があったこと等も影響し、次第に大宮通等いくつかの道筋で賑わいを見せるようになった。
- 上記の通り、東寺周辺は、東寺の門前町として発

展してきた地域である。広大な東寺の寺域を取り囲む築地堀越しに見える木造の堂宇や、古都の玄関の象徴である五重の塔を背景とした町並みは、京都を代表する風景の一つである。

- また、東寺周辺は歴史的な町並みを残しているが、東寺の南側は、主に住宅地や学校などの教育施設が建ち並んでいる。

東寺（教王護国寺） （世界遺産）

広大な寺域において、木造の堂宇や五重塔及び樹木が一体となり、景観を構成している。



東寺（教王護国寺）周辺

北門参道や東寺(教王護国寺)に面する大宮通・九条通・壬生通の歴史的な町並みや東寺の伽藍及び連続する堀・樹木等によって景観が一体的に構成されている。五重塔は、平安京の南辺にあり、長く京都の景観のシンボルであり続け、現在もランドマークとしての役割を果たしている。九条通、大宮通などの広幅員道路および300m程度離れた公園等からは、視認することができる。



北門参道



壬生通



九条通

六孫王神社

鎌倉時代には、東寺(教王護国寺)、大通寺(遍照心院)とともに、六孫王社が本村域の景観を特徴づける存在であったという。



本願寺・東寺 界わい景観整備地区

鎌倉時代以降、大師信仰の興隆や、七条油小路に稻荷社御旅所があったことなども影響し、次第に大宮通などいくつかの道筋でにぎわいを見せるようになった。古都の玄関の象徴である五重塔を背景とした町並みは、この地域らしい雰囲気醸し出している。



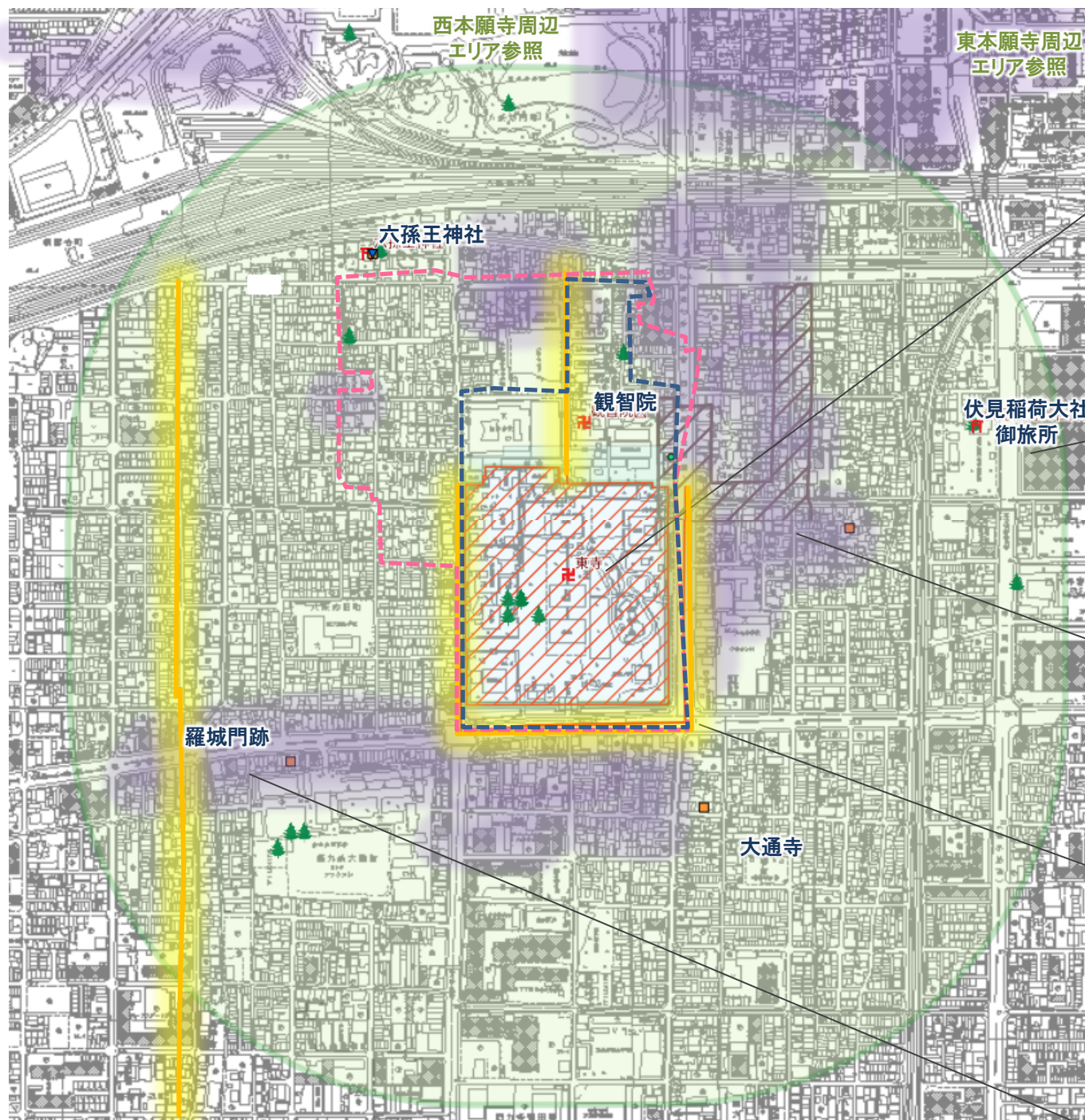
猪熊通



大宮通

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り
- （白線） エリアの主な通り

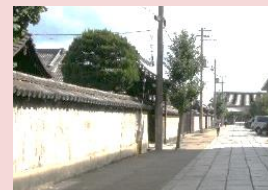
エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

東寺（教王護国寺）境内

かつての境内は、北西に広範囲であったが、明治16-18年には、西側は除かれ、南北に長い形となっている。特に境内に隣接した北部は、宅地化が遅かったとみられる。



伏見稲荷御旅所

伏見稲荷を氏神と仰ぐ住民が住んでいる地域（氏子区域）の北限はおおむね松原通（旧五条大路）、西限はおおむね千本通（旧朱雀大路）で、東寺、西本願寺、東本願寺を含んでいる。この氏子区域には、年に一度稲荷の神を神輿に奉戴して伏見稲荷大社から御旅所に招き入れ、区域を練り歩く稲荷祭りがある。その路順には東寺が含まれており、神仏の垣根を超えた交流が見られる。²⁾



東寺（教王護国寺）北東

かつては、八条通以北の西九条境内とよばれた市街地化した部分と、八条通から九条通にかけての農村から成り立っていたが、鎌倉時代以降、大師信仰の興隆や、七条油小路に稲荷社御旅所があったこと等も影響し、大宮通等いくつかの道筋での宅地化も早かったとみられる。³⁾

九条通

明治2年の絵図に既に描かれる。現在の九条通は、平安京九条大路より西南方向にかなりずれているが、これが平安京の南限であった。東寺の南側から羅城門跡にかけて、明治25年以前の地図では既に宅地化が見られる。⁴⁾



旧千本通

平安京の正面であったため、朱雀大路が果てて九条大路と交わる場所には羅城門が位置し、都の正面玄関であった。⁵⁾ 九条千本には羅城門跡地が公園として整備され、その周辺の宅地化は早かったようで、明治25年以前から古い宅地が見られる。

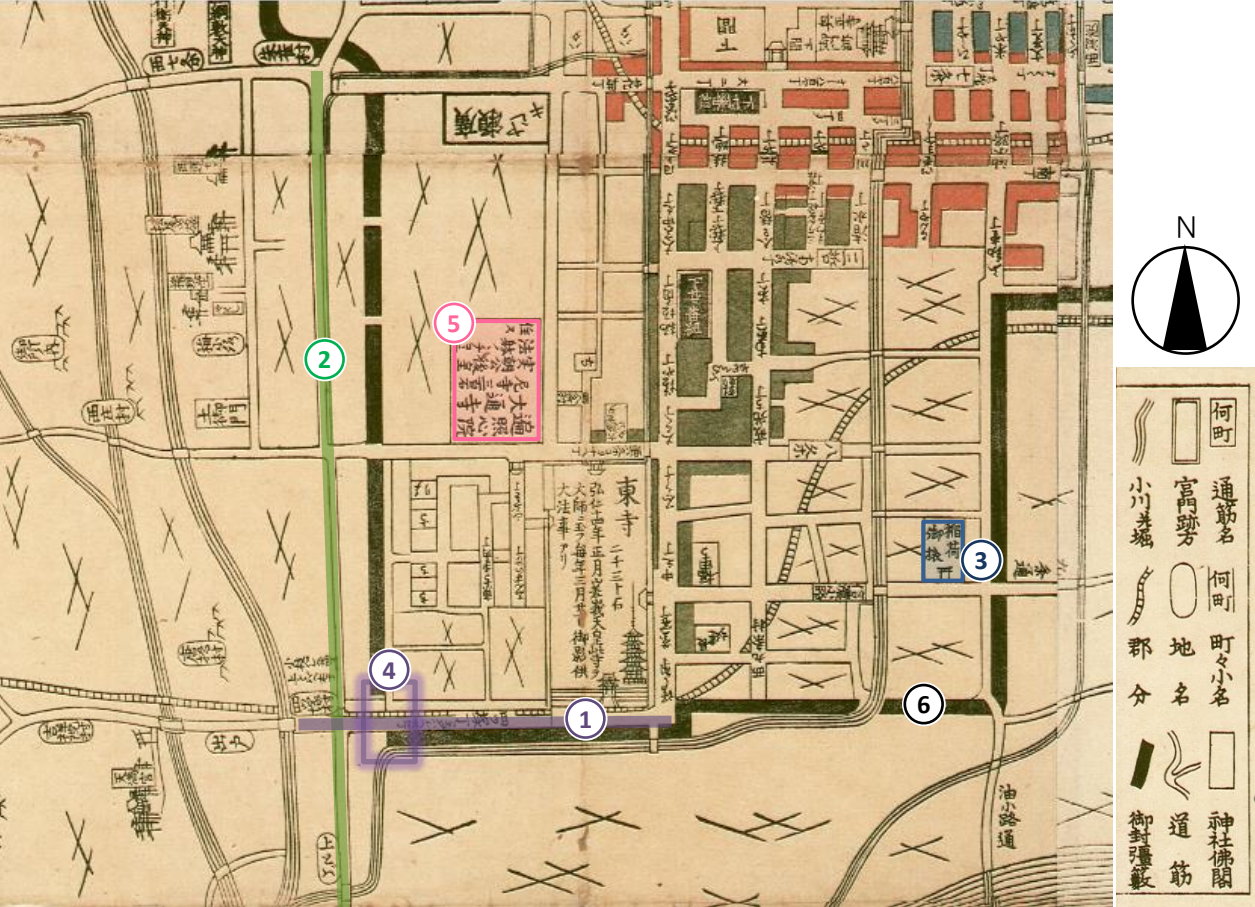


【凡例】

- | | | |
|------------------|--------------------|---------------|
| 視点場（境内） | 建造物・庭園 | 樹木 |
| 視点場（参道等） | 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 | 天然記念物 |
| 近景デザイン保全区域 | 歴史的意匠建造物 | 保存樹・区民の誇りの木 |
| 特に着目する通り | 界わい景観建造物 | |
| 明治25年以前から存在する市街地 | 京都を彩る建物や庭園 | |
| 明治16-18年時点の境外 | 文化財（建築物） | 明治16-18年時点の境外 |
| 明治16-18年時点の境内 | 文化財（史跡・名称） | 明治16-18年時点の境内 |
| 界わい景観整備地区 | 国土地理院社寺データ等 | |

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

明治2年(1869年) (上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

① 九条通

すでに描かれる。現在の九条通は、千本通の西側で平安京九条大路より西南方向にかなりずれているが、これが平安京の南限である。これより北の南区域部分が、平安京にとりこまれ、首都の地となったということになる。⁶⁾

② 旧朱雀大路

- 旧朱雀大路とみられる道の南に延長したところに、「上とば」と記載があり、鳥羽街道へと繋がっていた。
- 南区にあって、古代においてもっとも重要な位置をしめた街道は、鳥羽作り道であり、平安京の正門の羅城門、すなわち九条千本からまっすぐ南にのびる道が現在も存在している。⁷⁾
- 南を正面とする平安京にとって、南区はいわば表玄関ともいえたから、いくつかの重要な施設が建設された。その第一が、朱雀大路が果てて九条大路と交わる場所に位置する羅城門であり、都の正面玄関であった。⁸⁾
- しかし、朱雀大路は、平安時代なかばには早くもその意義を失いつつあり、同末期には、平安京西端の道路としての意味しかもたなくなっていた。⁹⁾

③ 伏見稻荷御旅所

絵図中に記載があり、信濃小路（東寺通）沿いということが分かる。

○ 東寺と西寺

朱雀大路をはさみ、東西対象に位置して建設された。長岡・平安京では当初、いっさいの寺院建設が禁止されたが、その例外が、東寺・西寺であった。なしくず的にこの規定が崩壊し、京都に寺院が林立するようになる平安時代中期まで、東寺・西寺は京内でただ2つの寺院であった。¹⁰⁾西寺は正暦元年（990）に焼失し、羅城門も平安時代末期には廃絶していたものと思われる。¹¹⁾

④ 鳥羽口

鳥羽からまっすぐに北上した羅城門跡付近にあった京への入口。近世に至っても公に認める京への入口であったという。¹²⁾

⑤ 六孫王社・大通寺

鎌倉時代には、東寺とともに、六孫王社・大通寺（遍照心院）が本村域の景観を特徴づける存在であったという。¹³⁾

⑥ 御土居

御土居は、八条村域の西端と南端を限ったため、村域は洛中として位置付けられた。村人はこの土塁を眼前に生活していたと思われる。¹⁴⁾

明治25年(1892年)



明治16-18年時点の境外地

明治16-18年時点の境内地

近景デザイン保全区域

視点場（境内）

特に着目する通り

資料：仮製地形図(明治中期)
(国土地理院所蔵)

画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑦ 九条通

東寺附近の通り沿いに宅地化が広くみられる。

⑧ 八条村

八条村との記載がある。村域の南端は平安京の九条大路、また西端は御土居に該当する。¹⁵⁾

⑨ 西九条村

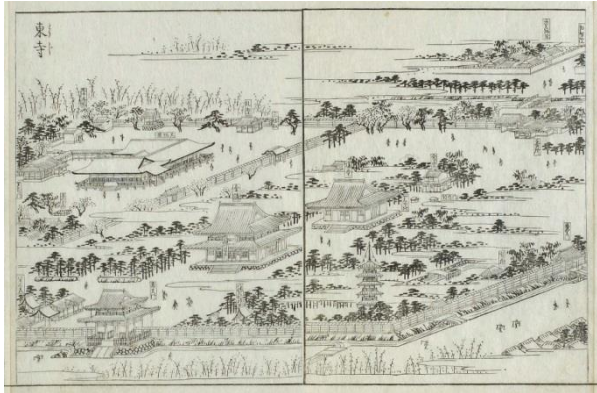
西九条村との記載がある。村域の南端は平安京の九条大路、また東端は御土居に該当する。

⑩ 御土居

御土居の一部が残存している。

⑪ 東寺境内

明治16-18年までの境内は、大通寺（遍照心院）も含む広範囲であったが、明治16-18年時には、西側は除かれ、南北に長い形となっている。

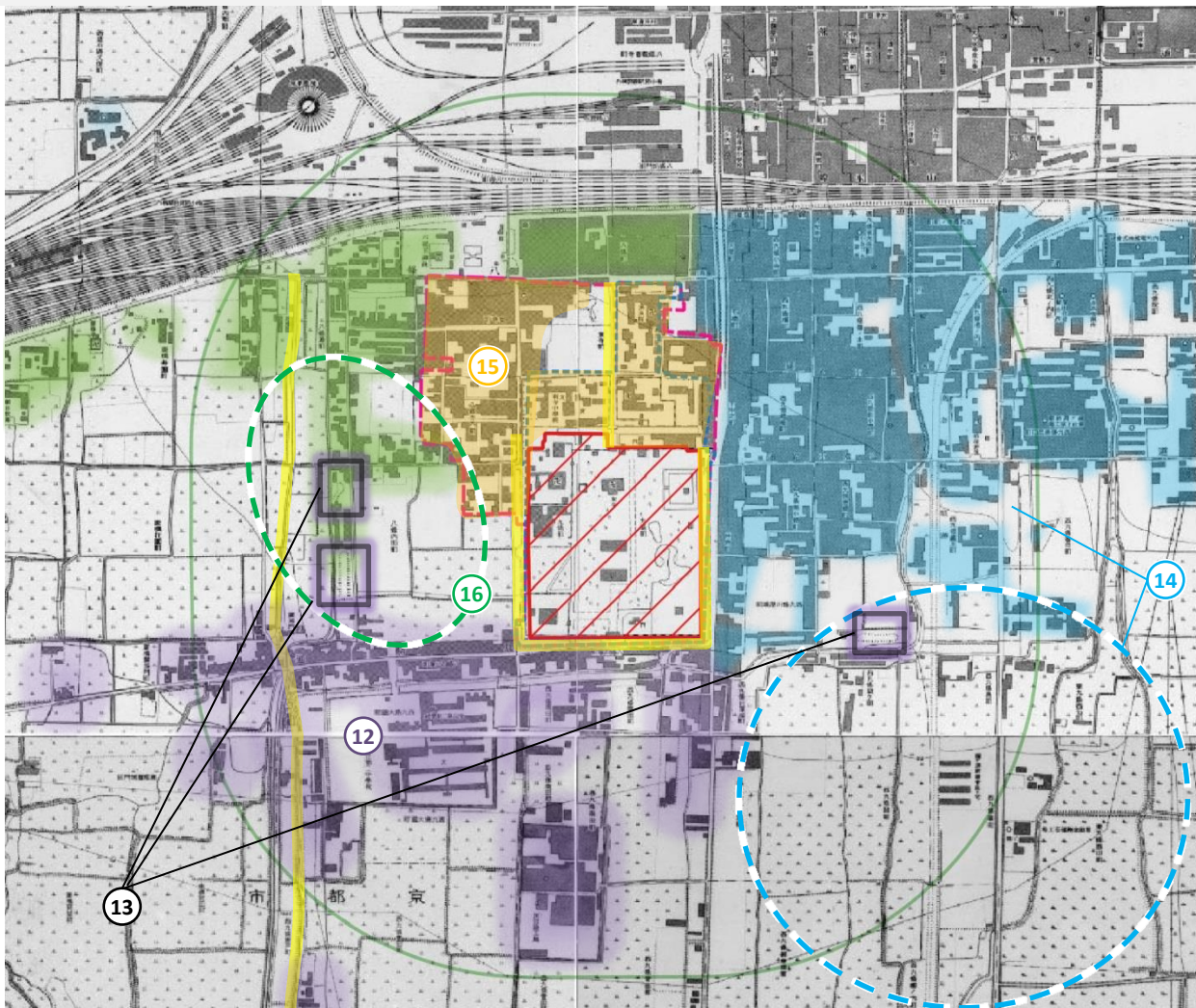


都名所図会「東寺」（国際日本文化研究センター所蔵）

都名所図会（1780）を見ると、境内の北には北大門が描かれ、蓮池を経て北総門に至る参道が描かれている。現在この参道の西側は洛南高校付属中学となり、運動場などが参道に面しているが、江戸中期には西側についても観智院のある参道東側同様、堀を介して塔頭が立ち並び参道景観を形成していたことがわかる。¹⁶⁾

エリアの土地利用の変遷

大正11年(1922年)



資料:京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3、000)を参考にし、作成したものです。

⑫ 九条通

九条通以南の宅地化が広がっている。

⑬ 御土居

御土居の破壊が進み、一部を残すのみとなっている。

⑭ 東寺東側

東寺の北東は宅地化が急速に進んでいる。一方、南にいくにつれて、農地が広がっている。

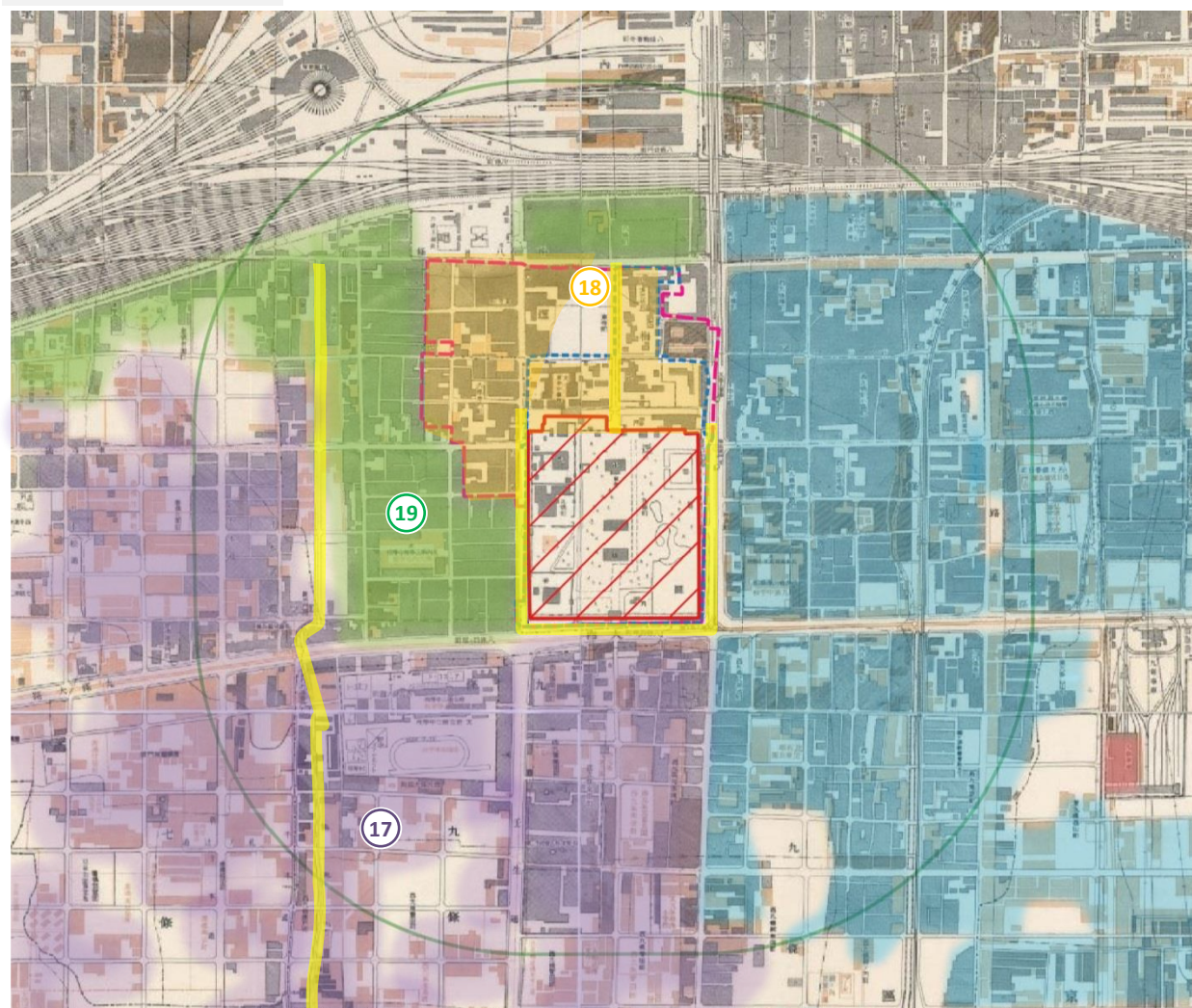
⑮ 東寺北側

東寺北西に位置した大通寺（遍照心院）は、明治45年に旧地が鉄道線路敷地用地となり、移転した。東寺以北は、急速に宅地化が進んでいる。東寺境内の隣接した空き地は宅地化していない。¹⁷⁾

⑯東寺西側

東寺の西側は未だに宅地化しておらず、農地が残る。

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑰ 九条通

昭和28年には、九条通以南、北西の宅地化が急速に進んでいる。

⑱ 東寺北側

東寺境内の隣接した空き地は、まだ宅地化していない。

⑲ 東寺西側

農地であった西側も、昭和10年には宅地化している。

東寺

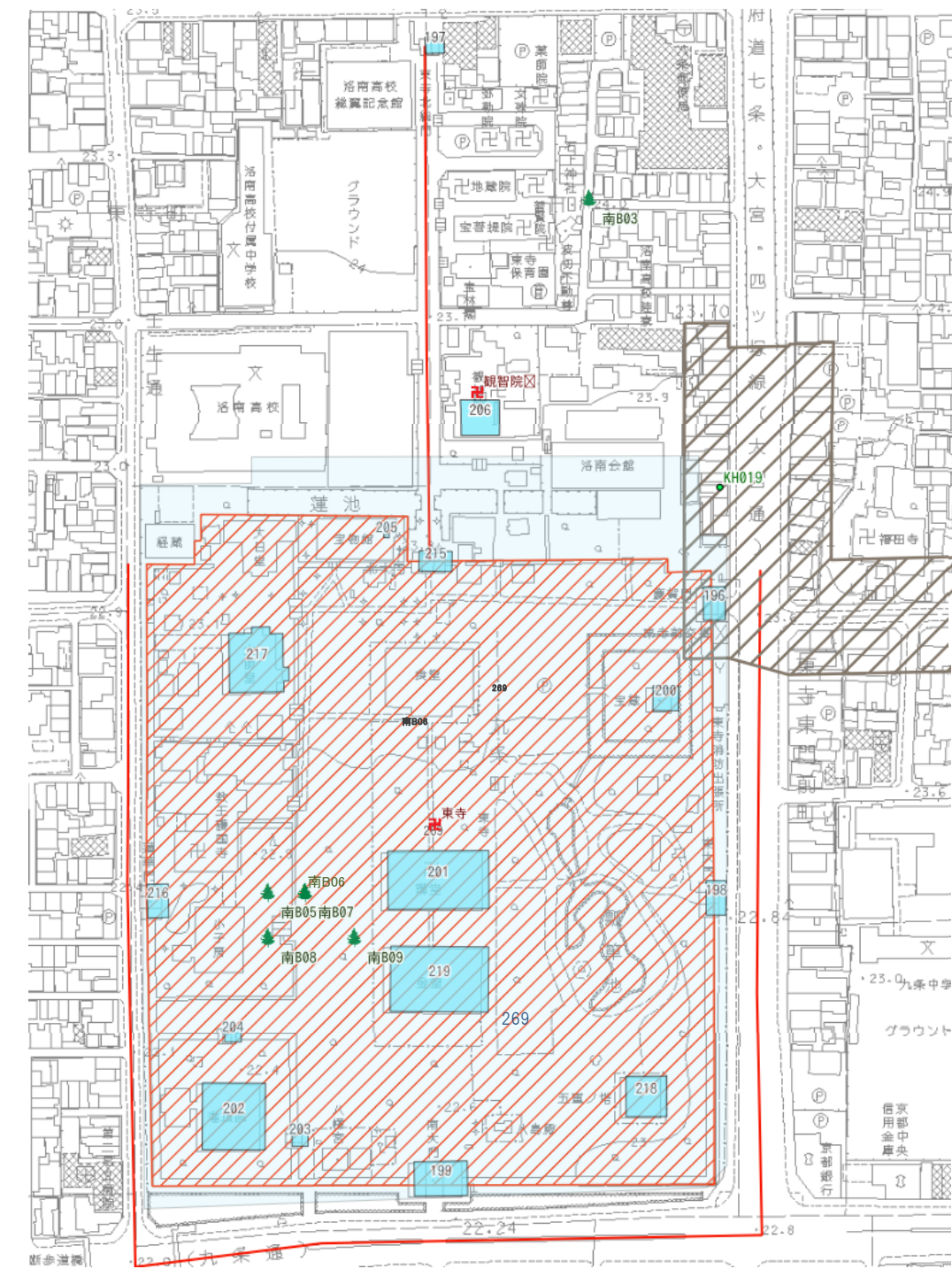
教王護国寺（東寺）は平安京造営に際し、国家鎮護のために羅城門の東西に建立されたふたつの官寺、東寺・西寺のひとつである。弘仁14年（823）には空海に下賜されて真言密教の道場となり、寺院として本格的な伽藍が整えられた。その後、度重なる内乱等によって焼失したが、その都度、時の政権の庇護のもとに再建されてきた。現在は南大門、金堂、講堂、食堂、北大門が南北軸状に並び、この東南方には五重塔が、西南方には灌頂院が配されて、創建当時の伽藍配置を伝えており、平安京復元の基準としての意味も持っている。

金堂（本堂）は慶長8年（1603）に再建されたもので、桃山時代を代表する豪壮雄大な建築である。また五重塔は寛永21年（1644）の再建になるものの、復古的意匠をもつ点に特色がみられるとともに、その高さは現存する塔のなかでは最大で、京都の景観的シンボルとなっている。このほか、空海の住房として使われていた大師堂は、康暦元年（1379）に焼失したが翌年には再建され、さらに明徳元年（1390）に大師像を拝する礼堂と廊が増築されており、今も寝殿造りの形式を受け継いだ優美な姿を見せている。

金堂、五重塔、大師堂、蓮花門の4国宝の他、内部に21尊の仏像が安置されている講堂や密教の重要な儀式である伝法灌頂を行う灌頂院、11世紀の建築である校倉造の宝蔵など9棟1基の重要文化財建造物を有している。¹⁸⁾

文化財

国宝	蓮花門	216				
	大師堂 （西院御影堂）	217	五重塔	218	金堂	219
国指定重要文化財	慶賀門	196	北総門	197	東大門(不開門)	198
	南大門	199	宝蔵	200	講堂	201
	灌頂院	202	灌頂院 東門	203	灌頂院 北門	204
	五重小塔	205	北大門	215		
国指定史跡	境内	269				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建築物・庭園

景観重要建築物・歴史的風致形成建築物

歴史的意匠建築物

界わい景観建築物

京都を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

東寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

〔国宝〕



蓮花門※



大師堂（西院御影堂）



五重塔



金堂※

〔国指定重要文化財〕



慶賀門



北総門



東大門（不開門）※



南大門



宝蔵



講堂※



灌頂院※



灌頂院 東門



灌頂院 北門※



北大門※

〔国指定史跡〕



境内※

■ 樹木

ケヤキ：東寺（金堂前）
南B05

ケヤキは大木に育つ樹木で、社寺の境内によく植えられます。

灰色がかった幹は天に向かってまっすぐに伸び、伸びやかに広がった枝は夏の暑い日差しを遮り、大きな緑陰をつくれます。

その姿は、金堂などの黒い屋根瓦とよく調和しています。葉が生い茂る季節だけでなく、冬枯れの光景も見事です。落葉後の逆三角形に整った樹形は、いっそう際立ちます。

〔区民の誇りの木〕



クスノキ：東寺（食堂付近）
南B07

昭和の初めに植えられたそうで、数本が重なりあって緑の空間をつくっています。

〔区民の誇りの木〕



クスノキ：東寺（弁財天付近）
南B06

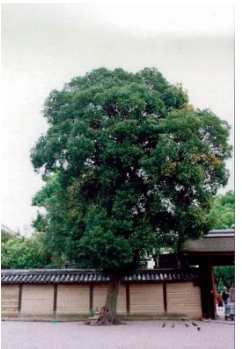
境内では最も大きなクスノキで、大きな枝張り特徴です。遠方からもよく目立ちます。



ツクバネガシ：東寺（大日堂付近）
南B08

ツクバネガシが庭木として使われるのは珍しく、大木の多い東寺でも目立っています。

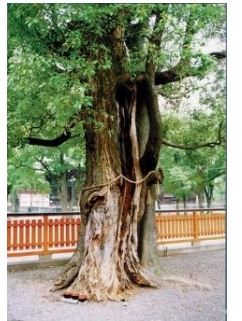
〔区民の誇りの木〕



クスノキ：東寺（八幡宮社）
南B09

のびのびと枝を伸ばしている古木です。

〔区民の誇りの木〕

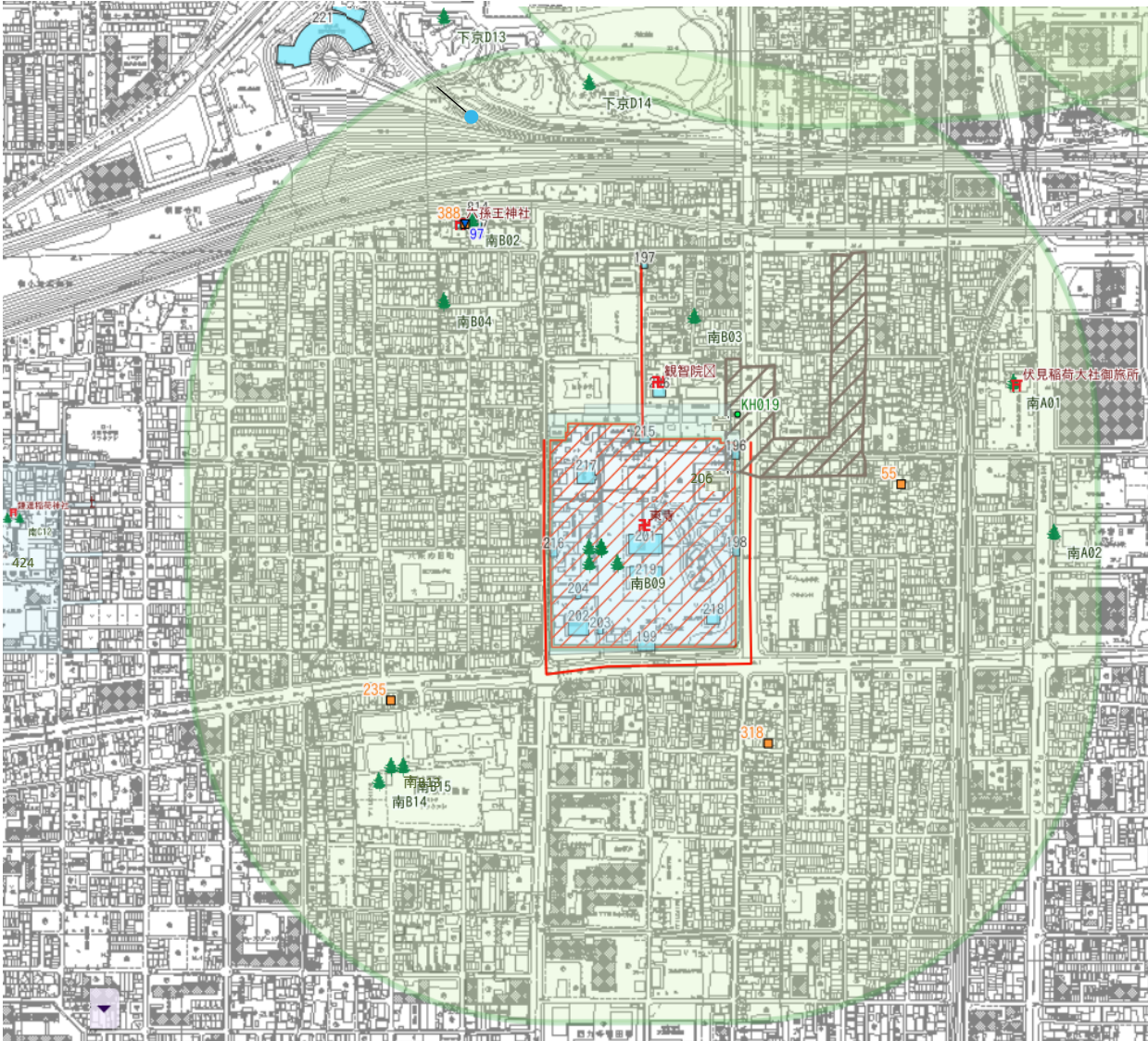


■ 東寺境内からの守っていききたい眺め(東寺へのヒアリングより)

●境内から五重塔への眺め

境内からの守っていききたい眺めとして、特に五重塔を背景とした枝垂れ桜への眺めと瓢箪池の北側から五重塔への眺めがあげられる。





※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

界わい景観整備地区

建築物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京都を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

観智院

[国宝(客殿)]

客殿※
国宝

教王護国寺（東寺）の塔頭。本坊の北東に位置。康安元年（1361）頃、杲宝が創建。東寺教学研究の中心で二一塔頭の随一。特に「金剛藏聖教」はその質と量においてわが国の最高峰。江戸期には真言宗の勧学院となる。¹⁹⁾

六孫王神社

[市指定文化財(本殿・拝殿・唐門及び回廊(2棟)・景観重要建造物・京都を彩る建物や庭園)]

本堂等
市指定
▼97 ■388

清和源氏の祖とされる源経基（六孫王と称す）を祭神とする。旧村社。「六孫王神社由緒略記」によれば、この地はもと源経基の邸宅が営まれた場所で、応和元年（961）に経基が死去したのに伴い嫡男の満仲が父をここに葬って霊廟を建て、六孫王神祠と号したのが草創という。現在本殿の背後に神廟があり、石で基壇を築いただけという珍しい墓がある。その後、この地の北に遍照心院（大通寺、現南区）が営まれ、この寺の鎮守社となったが、応永5年（1398）7月24日の火災にあって灰燼に帰した。

現在、毎年10月11日に行われる祭礼を宝永祭と称するのは、宝永4年の神輿の再興にちなむもので、青竜・白虎・朱雀・玄武の四神が出るこの祭のかつての盛んな様子は「都林泉名勝図会」の挿図によってしのぶことができる。²⁰⁾

（景観重要建造物指定理由）

平安京の壬生大路と八条大路の角に位置し、清和源氏の始祖である源経基を祭神とし、鎌倉幕府、室町幕府、徳川幕府の時の権力者の支援を受けて幾度も再興するなど、千年の時を超えて歴史を受け継ぐものとして価値が高い。江戸期に建てられた本殿、拝殿、唐門、南北回廊とともに、都林泉名勝図会に描かれる神龍池の太鼓橋や多種多様な桜が境内地を彩り、祭事には華やかな祭礼が練り歩くなど、市民に親しまれる景観となっており、当該地域の景観の形成に重要な建造物である。

伏見稲荷大社 御旅所

4月下旬に御旅所への神幸があり、5月3日に当社へ還幸する稲荷祭がある。祭礼行列の道順は、神幸の時には稲荷社を出て竹田街道を北上し、七条通を西行し、大宮通を経て、この八条堀川の御旅所（現京都市南区）に入る。還幸の時は、御旅所を出た神輿は東寺慶賀門前にて、東寺から神輿への御供の儀をうけた後に北上し、五条通を東行して氏子圈を巡った後、竹田街道を南下して伏見稲荷大社に戻る。

この巡行路は、氏子圈の大宮以東をほぼ一巡するかたちをとり²¹⁾、東寺周辺では、神仏を超えた交流がみられる。

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

7

東寺周辺の歴史的資産(2)

■西寺跡

[国指定史跡]



国指定※

平安京の官寺として造営された東西二寺の一つ。現存しない。跡地は国指定史跡。羅城門を中にして左京の東寺（左大寺、教王護国寺）と相対して位置し、右大寺とも称した。位置は平安京の右京九条一坊（九町-十六町）、つまり南は九条大路、西は西大宮大路（現御前通り）、北は八条大路（現八条通）、東は皇嘉門大路（現七本松通り）を限る東西二町南北八町の地を占め、寺観を誇った。中世期初期に焼失・荒廃、その後の経緯は明確でない。発掘調査の結果、西寺町の唐橋小学校・西寺児童公園などの所在地にその寺跡が確認されている。²²⁾

■大通寺



源実朝の妻（坊門信清の女）が実朝の菩提を弔うために建立した遍照心院の寺基を継いだ寺。真言系単立。万祥遍照心院と号し、本尊宝冠釈迦如来。もと六孫王社（現南区）の北に所在した。遍照心院は真空を開山として創建。源氏ゆかりの寺として、鎌倉・室町幕府将軍の庇護を受け、豊臣・徳川両氏もこれにならって寺運の隆盛をみた（「都林泉名勝図会」など）。明治の神仏分離までは六孫王社を鎮守とし、律・真言・三論を兼学、朱印寺領二八三石であった（京都御役所向大概覚書）。明治45年（1912）旧地が鉄道路線敷設用地となり、現在地に移転。²³⁾

■景観上重要な建築物、庭園等

本願寺・東寺界わい景観整備地区

東寺地区は、平安遷都直後に官寺として建立された東寺を中心に開けた市街地である。鎌倉時代以降、大師信仰の興隆や、大宮七条に稻荷社御旅所があったことなども影響し、次第に大宮通などいくつかの道筋でにぎわいを見せるようになった。古都の玄関の象徴である五重の塔を背景とした町並みは、この地域らしい雰囲気醸し出している。

平田郷土玩具

[界わい景観建造物]



●KH019

日の出湯

[京都を彩る建物や庭園]



■55



昭和3年（1928）に建築。京都の銭湯の典型的な姿を完全な形で残しており、現存している京都の戦前築の木造銭湯の中で最大規模。

伊藤家

[京都を彩る建物や庭園]

昭和初期に葉茶屋の商家として建てられた町家である。看板建築に改変されていた外観を、当時の趣ある佇まいに修復された。内部は、格天井や箒欄間がある本玄関など格調高い造りが随所に見られる。



■235



寿湯

[京都を彩る建物や庭園]

昭和初期頃の建物と思われる銭湯建築。唐破風の入口が残り、二階に美しい欄干が残る。油井型の煙突の基部は、レンガ積みである。京都の銭湯の典型的な建築様式であり、次々と市中から姿を消しているなか、残って欲しい建物。



■318



東寺周辺の歴史的資産(2)

文化財(建築物)、史跡・名勝 等

[樹木]

ウメ
：梅小路公園（芝生広場南側）
🌲 下京D14

梅小路公園は平成6年につくられた広さ約10haの公園です。緑の少ない京都中心部の貴重な緑の空間となっています。梅小路の名にちなみ、多数のウメが植樹され、公園の東南部には梅林が整備されつつあります。下京区の区制120周年を記念して、平成12年3月に、さらに多数のウメが植栽されました。初春には紅白の梅が咲き、芳香が漂います。



「区民の誇りの木」

ソメイヨシノ
：九条弘道小学校
🌲 南A02

正門入口付近にあるソメイヨシノは、学校の敷地を拡張した記念に植樹されました。



「区民の誇りの木」

シュロ：鳥羽高等学校
🌲 南B15

正門の植樹帯に3本組み合わせて植えられ、校歌にもうたわれています。



「区民の誇りの木」

クスノキ：波切不動尊石上神社
🌲 南B03

剪定されて、梢（こずえ）は小さくまとめられています。力強い姿を誇っています。



「区民の誇りの木」

クスノキ：稲荷大神
🌲 南B04

クスノキは社寺境内に植えられることの多い常緑の高木で、葉や枝からは芳香が漂います。病虫害におかされにくく、暑さにも強く、枝張りが大きいので緑陰樹として使われます。この神社は、古くからの住宅地の一角にあります。建物が密集しているので、2本のクスノキは枝を剪定されて、小さくまとめられています。



「区民の誇りの木」

クスノキ：鳥羽高等学校
🌲 南B13

正門の西に育つクスノキで、十条通と校舎とを区切る役割を果たしています。



「区民の誇りの木」

ヒマラヤスギ：鳥羽高等学校
🌲 南B14

西インド・ヒマラヤの原産です。校舎の周りに整然と並んで育っています。



「区民の誇りの木」

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

歴史遺産型美観地区（東寺）

東寺地域は、東寺及びその周辺の市街地から構成され、東寺の門前町として発展してきた地域である。広大な東寺の寺域を取り囲む築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つである。こうした景観特性を継承することを、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため建築物は、門前町の風情の保全に配慮するとともに、東寺に面する敷地にあっては、築地塀や五重の塔、金堂等の大規模な木造建築物に配慮した和風基調の町並みを保全、創出し、その他の敷地においては、町並みの基調となっている京町家との調和を図るため、日本瓦又は銅板ぶきの特定勾配屋根を設け、低層階に格子等の和風意匠を継承したデザインを取り入れる等、門前町の雰囲気継承した落ち着いた町並み景観の保全、創出を図る。



1) 周辺の町並み（九条通り）



2) 五重塔と塀（九条大宮から望む）

本願寺・東寺界わい景観整備地区

【景観の特性】

東寺地区は、平安遷都直後に官寺として建立された東寺を中心に開けた市街地である。

鎌倉時代以降、大師信仰の興隆や、大宮七条に稻荷社御旅所があったこと等も影響し、次第に大宮通等いくつかの道筋で賑わいを見せるようになった。古都の玄関の象徴である五重の塔を背景とした町並みは、この地域らしい雰囲気を醸し出している。



3) 東寺通の町並み

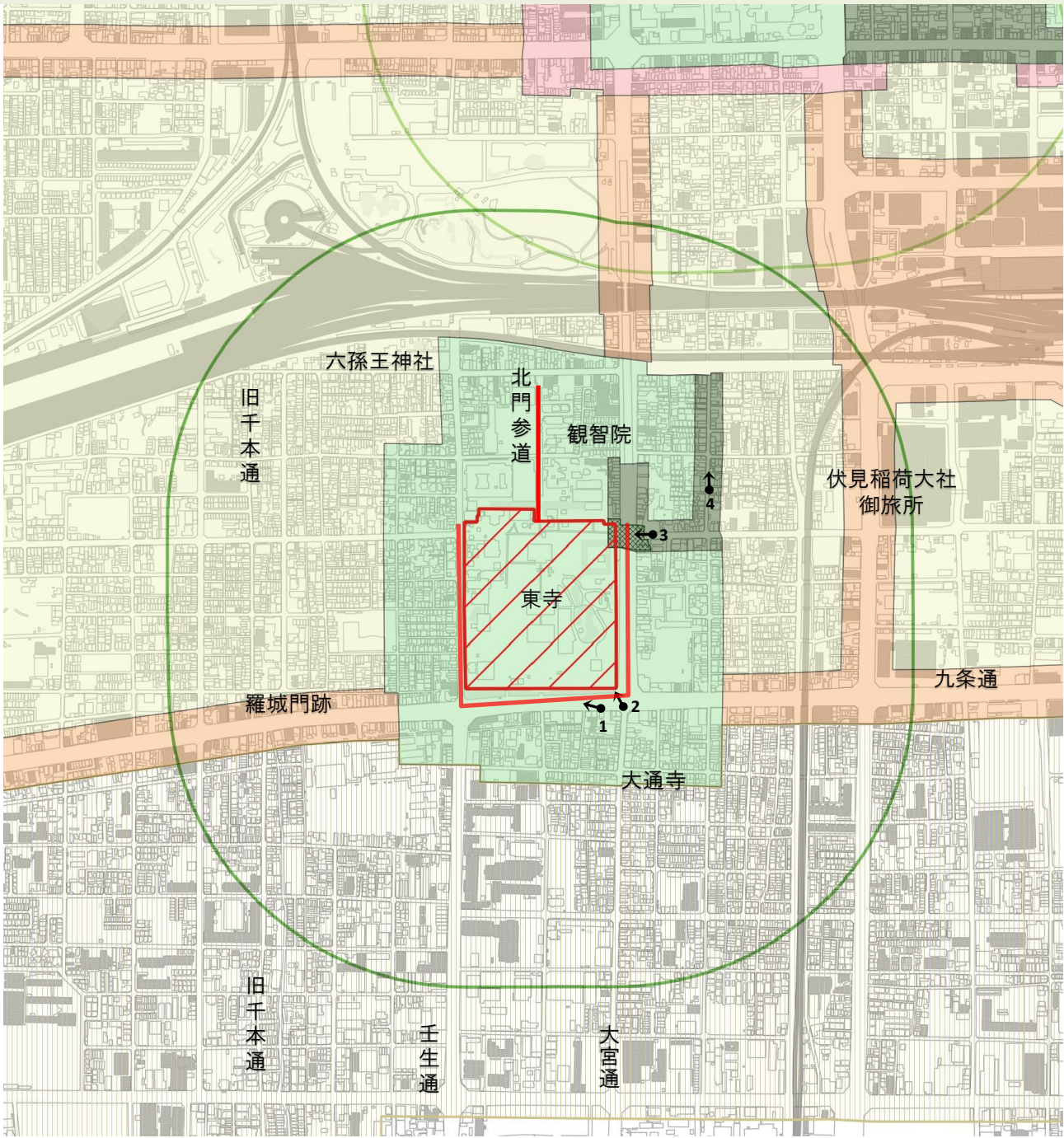


4) 東寺周辺の町並み（猪熊通）

【景観整備の目標】

この地区においては、次に掲げることを目標にして、景観整備を行う。

- ・上記の特色ある景観を維持し、又は整備すること。
- ・多様な宗教関連用品を扱う店舗及び工房と多くの市民の居住空間の共存を図りながらの町づくりや建物づくりの知恵などを評価し、町並み景観づくりに生かすこと。



【凡例】		
眺望景観保全区域		
	視点場（境内）	
	視点場（参道等）	
	近景デザイン保全区域	
風致地区		
	風致地区第1種地域	
	風致地区第2種地域	
	風致地区第3種地域	
	風致地区第4種地域	
	風致地区第5種地域	
	風致特別修景地区	
景観地区		
	山ろく型美観地区	
	山並み背景型美観地区	
	岸边型美観地区	
	旧市街地型美観地区	
	歴史遺産型美観地区 一般地区	
	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区	
	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区	
	重要界わい景観整備地域	
	沿道型美観地区	
	市街地型美観形成地区	
	沿道型美観形成地区	
建造物修景地区		
	山ろく型建造物修景地区	
	山並み背景型建造物修景地区	
	岸边型建造物修景地区	
	町並み型建造物修景地区	
その他		
	伝統的建造物群保存地区	
	歴史的風土保存地区	
	歴史的風土特別保存区域	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）「東寺（教王護国寺）および下鴨神社（賀茂御祖神社）のバッファゾーンの景観保全の課題」2014. p.474

2) 前掲1). p.473

3) 京都市 編『史料 京都の歴史第13巻 南区』平凡社. 1992. p.168

4) 前掲3). p.22

5) 前掲3). p.11

6) 前掲3). p.22

7) 前掲3). p.23

8) 前掲3). p.22

9) 前掲3). p.58

10) 前掲3). p.23

11) 下中邦彦『日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名』平凡社. 1979. p.1003

12) 前掲11). p.1012

13) 前掲3). p.59

14) 前掲3). p.59. p.60

15) 前掲3). p.58

16) 前掲1). p.473

17) 前掲11). p.1002

18) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会『千年の都 世界遺産古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)』第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.142

19) 佐和 隆研 ほか編集『京都大事典』淡交社. 1984. p.222

20) 平凡社『寺院神社大事典 1 京都・山城』平凡社. 1997. p.639

21) 前掲20). p.589. p.590

22) 前掲20). p.280

23) 前掲20). p.449

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 東寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・境内からは、京都駅周辺や九条通沿いの高層建築物が見えるが、五重塔周辺は植栽が目隠しとなっており、周辺の建築物等は見えない。
- ・東西方向は高層建築物は少ないものの点在しており、土塀の背後に低層建築物の一部とともに見える。



1-1 慶賀門から東への眺望
：大宮通沿いに住宅が立ち並んでいる。



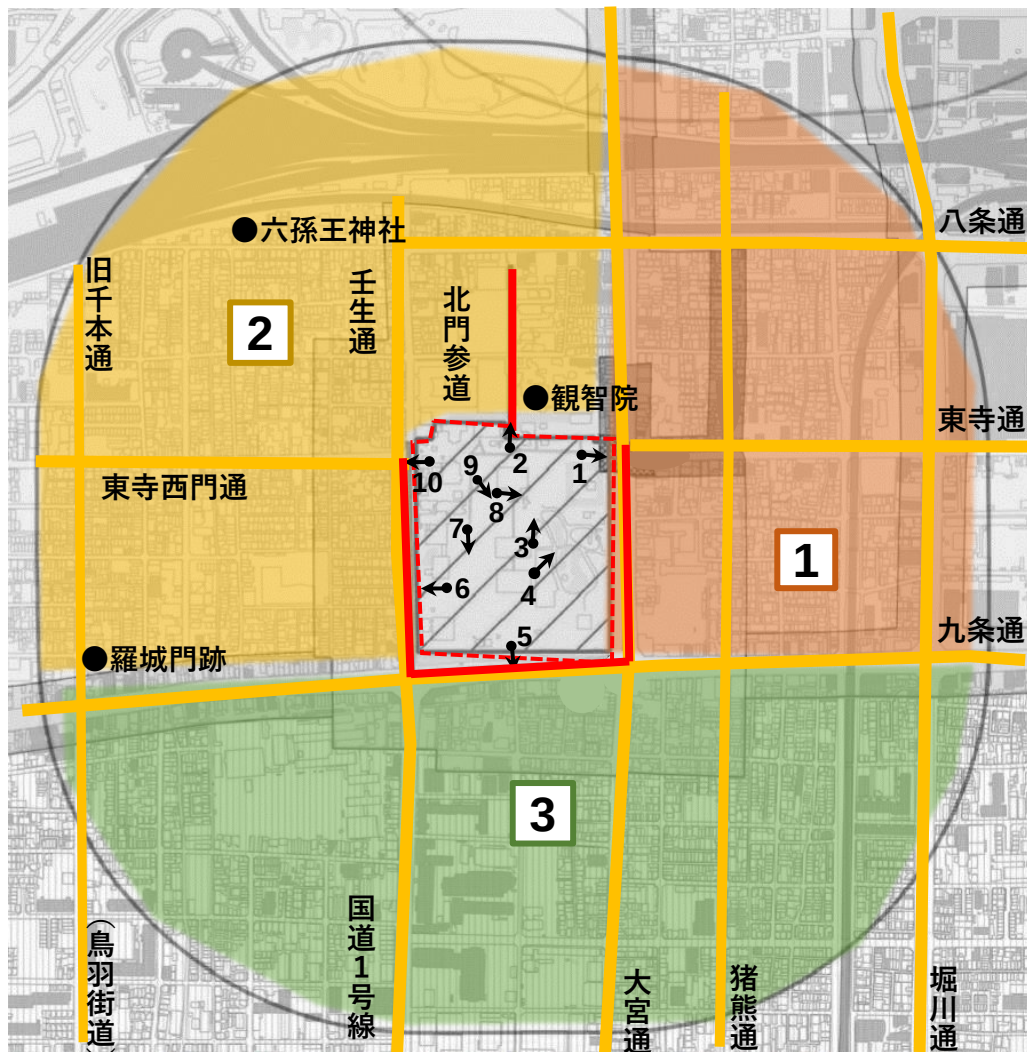
1-2 北大門から北への眺望
：東寺の関連施設が並ぶ統一感のある町並み。



1-3 講堂東側から北への眺望
：境内建築物の背後の所々に中高層建築物が見え、北山の稜線が遠くに見える。



1-4 講堂南東角から北東への眺望
：京都駅ビル、ショッピングセンター等が連なって見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 南大門から南への眺望
：低層住宅等が立ち並ぶ。



1-6 本坊と灌頂院の間から西への眺望
：土塀越しに低層住宅が見える。



1-7 本坊東側から南への眺望
：高層建築物が壁のように林立する。



1-8 食堂南西から東への眺望
：植栽の背後に、高層建築物が見える。



1-9 金堂東から南東への眺望
：樹木により建築物等は見えない。



1-10 西門から西への眺望
：2階建ての家並みが続く。

2 東寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 東寺の外周は土塀、植栽で囲われ、風格のある佇まいである。大きな通りに面しており、古都のランドマークである五重塔を遠くからも見ることができる。
- ・ 近くの京都駅に通ずるJR線、近鉄線の高架が目立っている。大通りには中高層建築物が立ち並ぶ。



2-1 東寺道から西への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。



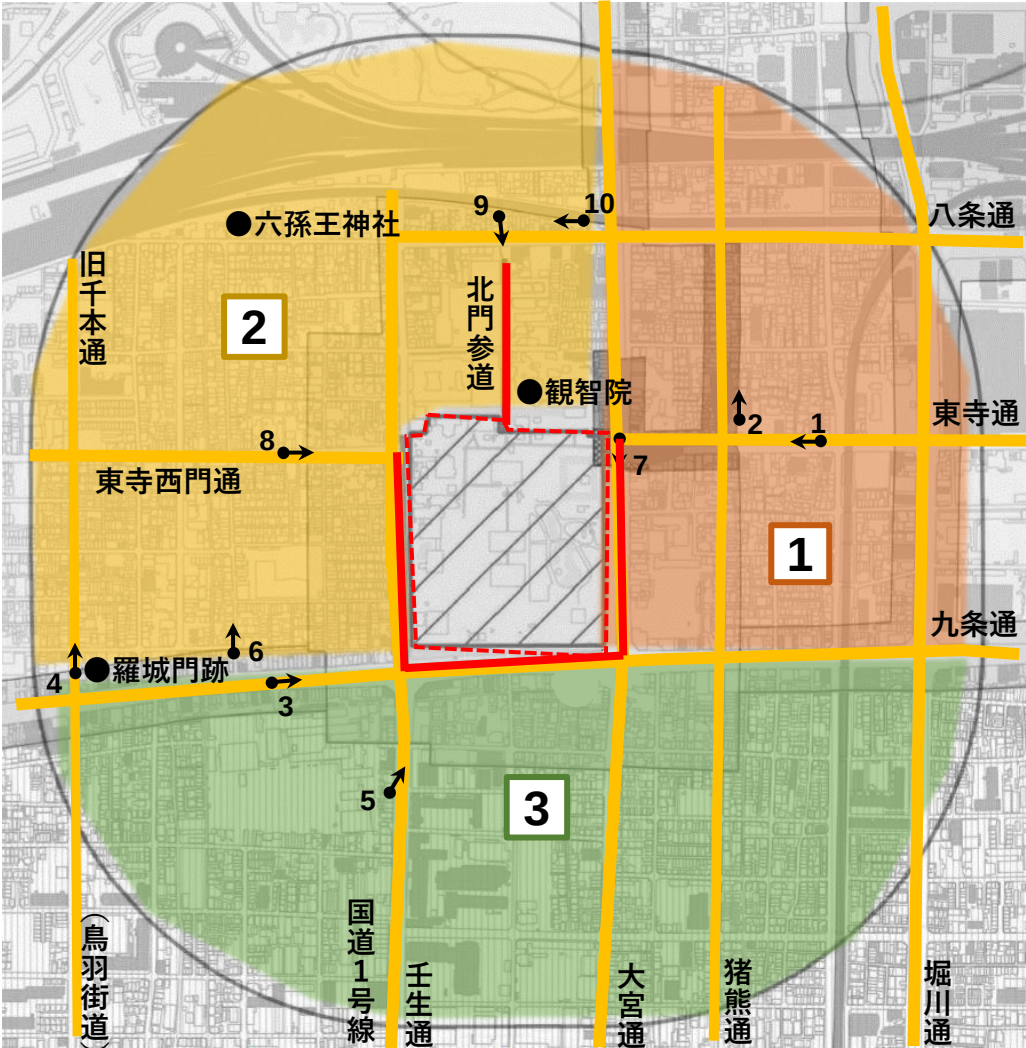
2-2 猪熊通から北への眺望
：落ち着いた町並みが続く。空地を駐車場に活用しているところが多い。



2-3 九条通から東への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。遠くからでも五重塔が見える。



2-4 旧千本通から北への眺望
：低層の住宅や商店が立ち並ぶ。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 国道1号線から五重塔への眺望
：離れたところからも五重塔が見える。



2-6 九条御土居から北への眺望
：土蔵のある古い屋敷も残るが、比較的新しい建築物が多い。



2-7 大宮通から南への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。遠くからでも五重塔が見える。



2-8 東寺西門通から東への眺望
：周辺には社寺や町家が比較的多く残っている。



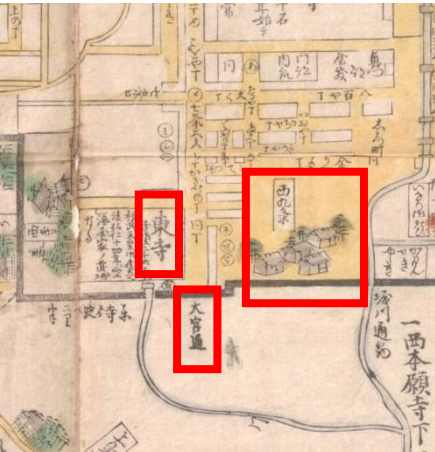
2-9 八条通から北門への眺望
：土塀が続く。学校の校舎が見える。



2-10 八条通から西への眺望
：空地が点在し、比較的新しい建築物が多い。

■ 3 東寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 東寺東側				2 東寺西側			
ア エリアの歴史等				ア エリアの歴史等			
・大部分が旧西九条村にあたる。西九条は鎌倉期から戦国期に見え、山城国紀伊郡のうち東九条と対をなす地名。 ・西九条村は江戸期から明治22年までの村名で、江戸初期に一部が市街化した。 ・寛永年間刊「毛吹草」に名産として直桑・青瓜・芋・水菜・藍とある。				・大部分が山城国葛野郡旧八条村にあたる。江戸期から明治22年までの村名で、「京都府地誌」によると、七八条村(七条通と八条通の間)、西八条村(東寺の西側)、東寺廻り(東寺周辺)の3区分があったとされる。もっぱら農業を営み、多くを当時の京都(およそ現在の都心4区)に出荷していた。			
イ 町並みの特徴				イ 町並みの特徴			
・京都駅が近く、堀川通、大宮通、九条通などの大通りには、商業施設やホテル・事業所などが立ち並び、近鉄電車の高架線路が走る。近年は特に開発の速度が速く、新旧建築物の入れ替わりが速く、新しい小規模建築物が目立つ。しかしながら、一步入ると昔ながらの長屋や敷地の小さな古民家・銭湯などが建ち並び、一部は、本願寺・東寺界わい景観整備地区に指定されている。 ・空地が駐車場として利用されているところが多い。主な道路の幅員は比較的広いが、路地も多い。 文化財等：郷土玩具平田、日の出湯				・この地域は六孫王神社・念佛寺、羅城門跡など、社寺や史跡が点在し、所々に虫籠窓のある古民家が残る。整然とした街区には比較的小規模な住宅が多く立ち並び、落ち着いた環境である。 ・九条通沿いには事業所、銀行、商店などが立ち並び、東寺近くでは町家を利用した小規模な民泊が数多く見られる。東寺の五重塔は遠方からも見ることができ、地域にとっては歴史あるランドマークである。 ・比較的緑地が少ない地域であり、東寺の豊かな緑風景は歴史的なだけではなく、貴重な自然景観である。 文化財等：六孫王神社			
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺界わい景観整備地区	歴史遺産型美観地区	市街地型美観形成地区	ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	市街地型美観形成地区	沿道型美観形成地区
	古都の玄関の象徴である五重塔を背景とした町並みは、この地域らしい雰囲気醸し出している。	東寺の築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	当該地域内には、大規模公共施設とともに、活気あふれる下町の風情を醸し出している。また、羅城門や西寺跡等の史跡にも恵まれている。		東寺の築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	当該地域内には、大規模公共施設とともに、活気あふれる下町の風情を醸し出している。また、羅城門や西寺跡等の史跡にも恵まれている。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 建築計画等に求める配慮事項				エ 建築計画等に求める配慮事項			
上記の特色ある景観を維持し又は整備すること。				建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。			
建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。				建築物等は、京町家等の歴史的町並みを残す地域においては、外観に和風意匠等を取り入れるなど歴史的な町並み景観の形成を図り、その他の地域は屋上景観等の整備に努め、良好な市街地景観の創出を図る。			



3-1 「京大繪圖 新撰増補」貞享3年(1686)：「西九条」「大宮通」の記載がみられる。



3-2 東寺通から東寺東門への眺望。新旧建築物が混じる町並み。



3-3 大通りでは、遠くからでも五重塔が見える。



3-4 「京圖名所鑑」安永7年(1778)



3-5 壬生通を蓮花門から北への眺望



3-6 東寺西側の町並み。小規模な住宅が立ち並ぶ。



3-7 九条通の町並み

3 東寺南側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・この地域は明治末期まで耕作地であり、市街化が進みだしたのは明治期以降である。 ・明治10年(1877)に神戸ー京都間の鉄道が開通、同29年に七条ー奈良間が開通した。 ・明治33年に京都府第二中学校(後の鳥羽高等学校)が創立し、大正期に徐々に市街化が進む。 ・昭和に入ると区画整理が進み、昭和14年(1939)に京都市電の九条線が全線開業する。(図3-8)。			 3-8 京都區組分細圖(明治14年(1881))
イ 町並みの特徴	・九条通、堀川通は交通量も多く、中層のビルやホテルが建ち並ぶ。一方、路地に入ると2階建ての住宅が密集している。 ・大宮通は昔ながらの庶民的な商店などが並んでいる。 ・エリアの西側には所々に空地が点在している。 ・エリアの南部には学校・工場・病院・水道局などが大きな敷地を占めている。公園は点在しているものの、全体に、開発が進み、空地はほとんど見られない。 ・エリアの東側には、近鉄京都線の高架があり、周囲は新しい住宅地が広がっている。 文化財等：伊藤家、寿湯			
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	町並み型建造物修景地区	沿道型美観形成地区	 3-9 ビルが並ぶ堀川通
	東寺の築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	東寺周辺は、歴史的な町並みを残しているが、主に住宅地や学校などの教育施設が立ち並んでいる。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。	 3-10 昔ながらの商店や住居が並ぶ大宮通
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。	建築物等は、まとまりのある町並み景観を形成するため、建築物の屋上デザインや色彩等の統一感を図る。		 3-11 近鉄の高架沿いの町並み

- 3-1 「京大繪圖 新撰増補」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-4 「京圖名所鑑」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-8 「京都區組分細圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)